磐城新聞

五日夕刊

休刊（祭[illegible]第一第三日曜
定價（壹枚二錢、壹ケ月五十錢、郵税十錢）
廣告料二行五十錢（指定廿錢增）
發行兼編輯印刷人　蓮沼龍輔
發行所　福島縣平町田町拾六　磐城新聞社　電話五六四番

創作

「お雪とその周圍」（三）

福田將夫

「ね、其麼ことがあつたのですか」恁う云ひながらわたしは苦笑せずには居られなかつた。

「間違ひつてものもお可笑しなものさね、今度お雪がお前の留守の間にまた腹が大きくなつたもので不思議に思つて、ふた親が聞いたんださうだ、すると、始めの子はお前の子ではなく、然も始めの子と二番目の子との父親が違つて居ることが分つて來たさうだ。でも矢張り、自分の一人娘は可愛いゝものと見ゑて、その子供の父親の方へ一言のかけ合もせずに二人の子供ふた親手で育てゝ居るつて云うから面白いわね」

「それや、本當に好い親ですね、親がそんな風ですから、お雪は好い氣になつて惡戯をやるのですね」

そんなことがあつてからまた三年計りの年月が流れた。わたしは今の妻の奈美子と結婚して、實家と別れて新世帯を持つた。暫くすると、實家は石狩の江別町に轉居した。

自分と妻と二人の簡單な新世帯ながら、女中を使ふ程でなくともよいとした二人の手に合はないやうな用事が出來て來る譯がなつた。さうした時にはすぐ、わたしの頭へ、お雪のことが浮んだ。

お雪の父親が、××劇場の下足取をして居ると云ふことを何時か聞いて居て、記憶の底に殘つて居たので或る日夕方、わたしは奈美子と一緒に××劇場の入口まで行つて見た。電燈の點火したばかりの薄暗い下足置場をそつと覗いて見ると年老へた男が三人、の隅の方に腰をおろして居た。そして煙草をふかし合つてゐた。芝居は恐ろしく不入りらしかつた

「殿村さんて、もしもた居[illegible]ですか」とわたしは云つた。

「殿村つて俺ですが」一見覺のあるお雪の父親がひよつこと其處へ顔を出した。二三年逢はない間に恐ろしく綺麗に頭が禿げ上がつたことが、第一にわたしの目についた。

「おー田邊の若旦那ぢやありませんか」

「外でもないが、お雪さんに少しして貰ひたいことがありますから、もしお雪さんが遊んでゝ居でのやうでしたら今彥三の三丁目の角の家に居ますから、一度來て頂き度いと思ひまして」

「お雪は矢張り遊んで居ますぢや。若旦那ももう奥さまをお貰ひなされたさうで陰ながら聞いて居りましたお雪も悅んで、あがりましよう」

「ぢや、お願ひ致します」

お雪の父親に別れて街の角へ來ると、其處に奈美子が立つて居た

翌る日、お雪が朝早くからやつて來た。長い間見なかつたけれども、昔のまゝの邪氣のない顔をして居た。そして、二人の子供を生んだ女らしくも見えなかつた

「お雪も子供二人のお母さんだね」と、わたしは笑ひながら云つた。しかし、お雪はそれにはなにも返事をしなかつた。

「お前が、第一番目の子供を生んだ時みんながあれが俺の子だと思つて居たさうだつたね」と云つて矢張りお雪は顔を赤らめるのみであつた。奈美子はわたしとお雪の顔を見較べながらわたしの顔を見て、につこりと笑つた。奈美子は凡てのことをわたしから聞いて知つて居た。

「あなたも、其んな蹲のあることを少しも知らなかつたのですの」

今度は奈美子がかつて聞いた。

「知つて居りました。が、若旦那の子でないと云ふことを言へば、誰の子だと聞かれると思ひましたから」

「一番、あはなかつたのは俺だね」といつてわたしはせうことなしに笑つた

其後、暫らくするとわたしらは妻が姙娠したので妻の實家へ轉宅した。妻の實家は妻の妹や、母が居たので、お雪に手傳つて貰ら必要がなくなつて來た。妹がら他家へ嫁いて人手が少ない處へ奈美子が二回目の姙娠をしたのでまだお雪の必要が生じて來た

今度は奈美子がお雪の家へ、或る日、俥で出懸けた姙娠六ケ月で体什うかと云ふ話もあつたけれども、歩んで行くにも少し遠ふ過ぎたので——。

「本當に樂な陽氣な話をして居るものですよ。思つたよりは小綺麗な家へ、小綺麗にして住つて居ますよ。それでもお父つさんが一日五十錢とるさうです。それにお雪とお母さんとが夜になつてから劇場の中賣に通つて、二人で平均五十錢は儲かだと云ふのですから月三十圓になりますからね交際はなし、着物は要らず本當に樂な話ですわね。あれでは、お雪に子供の一人や二人あつて小言云はず育てることの出來るも最もだと思ひました」と思つた歸つて來た奈美子が面白く發見でもして來たやうにわたしの顔を見るとすぐ云つた

明日の吉凶

新暦九月六日
舊暦七月二十三日

▲一白　目に見へて居ても手に入ることが遲し急ぐな▲二黒　誠意十分なれば勝利の榮冠を握る事を得る▲三碧　何事も物足らぬ思ひに暮る日あせるは大凶▲四緑　光陰は人を待たず午後ある事を頼むなかれ▲五黄　靜より發動に移り行く隆運の日大いにはげめ▲六白　物事行き詰まりを生し易し急げば急ぐほど凶▲七赤　不圖[illegible]怒氣を生じ出來に近く事を破る日▲八白　足腰を定めて根强く進むときは事成るべし▲九紫　元氣を充實し心を固めて急がずは吉日たり

講談

幕末秘帖　狂怒乱心

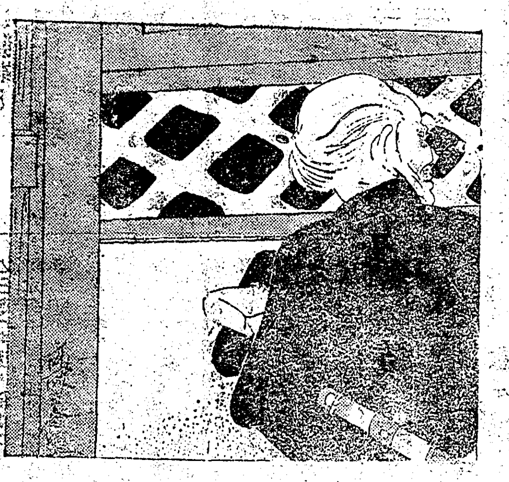
（33）

渡邊默禪作
宮野耿春畫

例の大髻に柴の打紐紺飛白の袷に裾短かな袴、重さうな大小を兀多つかせて肩を怒らせつゝ詩を吟じて行過ぎる。

「アヽモシ〳〵、ちよつとお待ちください」

輿平は音五郎に代つて調査委員の任務、土塀の蔭からちよこ〳〵と駈出して呼止めた



「何ぢや、おいに用か?」

片側が家の路側に立停る

「失禮でございやすが、少々物を承はりたうございます」と小腰を屈めて

「アノ貴君さまは新徴組の方でいらつしやいませうなア」

「いかにも、拙者は組の中にさる者ありと聞へたる二刀流の達人、宮本又右衛門字は卜傳だ、ハツハツハ」

「御識談を……實は二三日前の事で市ケ谷の定火消屋敷から梅といふ[illegible]を方へお連込になりましたが、其梅はどうなりましたか、御知ならば、洩らしくださるやうにお願ひいたしたいんで」

「何、梅?」卜傳先生首をひねつて考へてゐた。考へてゐるのを見て輿平は更に言葉を重ねた。

「お解りになりませんか、その梅といふ奴の所何でございます、新徴組に無禮を働いたとか何とかで、大層皆さが御立腹で、火消屋敷から當人を曳張出して此方にお連れになつたんで、所がそれつきり歸つて來ないもんでげすから、友人や仲間が心配しましてな一體どうなつたんだらうさ……」

「アヽコレ〳〵待てッ」

と高あしだは遮つて

「すると汝は何かその梅といふ者の朋輩かな」と薄氣味惡く眼を光らす

「ね、飛んでもない、私はそんなものぢや御座いません」輿平は狼狽するのを睨むやうに

「では何ぢや」

「へイ、實はソノ少しばかりな」

「なにが少しぢや」

「え、梅……梅といふ野郎に……アそう少し許り賭博の貸があつたんで、そ、それで奴の身に萬一の事でもございやすと、その金が貸倒れ、異逆た閻魔さまの所まで催促に行く譯にも參りませんから、まア死んだものなら香奠に遣つた氣で斷念めて了はうと思ひやしてね、それゆゑ御伺ひいたすのでございやすよ、へイ」

體好く言拔けた

「む」と高履はうなづいて

「解つた、左様にいたすとその梅なる者が如何相成つたかと箇樣に尋ねるんぢやな」

「へイ左様で」

「汝は一體どうなつたと思ふ?」

「さればでござえすよ、何ろ音に響いた新徴組の御連中が爲さる事ですから嬲り首か試し斬、どの助かりつこはありやすまい」

「その通り、その通り」

首を縦に振つて

「好く言つた、卜者の樣の樣ぢやの汝は」

と笑つてゐる。

「ねツ、それぢやア殺られましたかな」

と輿平は今更らの如くに吐胸を突いて

「惜いことを爲ちまつたなア」とがつかりする

「何が惜しい」

「ね、その貸した金がな…エ、モシ、旦那ね」

と猶側に寄つて

「貴名さまは此の御屋敷にお在なさるんでげすから何も箇も能く御存知でゐらつしやいませうが、其時の樣子は、ど、どうで御せえやしたか、切めての土産にそ、それだけなりと承はつて參りたうございやす」

早や潤み聲だ

此の時音五郎も通りすがりの者らしく粧つて二人の近くに足を停めながら耳を澄まして聞いてゐた。その面上には深いあん愁の雲。

ヒゲタ醬油
宮内省御用達
九升樽詰　二リットル壜詰
銚子醬油株式會社

特約店
平町田町
廣瀨支店
電話五四番

夜間診療
胃腸
内科
十二指腸虫病
專門
内科部
梅毒
淋病
婦人病
皮膚病
專門
外科部
平町南町
松村病院
電話一〇七

吉田眼科醫院

貸地廣告
平町郡役所より税務署附近の新開地に一千餘坪の貸地があります、然かも完全な土盛でありますから流失其の他の憂ひ絶對になく商店、諸工場並に高級の住宅地として最もの適地を極く安値にお貸しいたします
御希望の方は電話なり戴けば社員がお伺ひして親しく御相談に應じます
小名濱商事株式會社
平出張所
電話六〇三番
五四一番

入院隨意（自動の便あり）
X光線科
外科專門
平町南町
上田外科醫院
電話一二九

生花教授
池ノ坊流　生花を懇切丁寧に御教授いたします、お遊びがてら御出で下さい。
平町五丁目（釜屋横町）
須藤まつの

化粧くづれのない
固煉白粉
一　汗で化粧くづれにお困りの方は、是非ホシ美固練白粉をおつけ遊ばせ。
二　ホシ美固練白粉は、化粧くづれのない上にノリ、ノビがよく、化粧榮のする特徴を有つ[illegible]ます。
三　このホシ美固練白粉こそ、皆様の御滿足を購ふことの出來る品でございます。
ホシ美固煉白粉

東京　星製藥株式會社　大崎

内科、小兒科
花柳病科
入院應需
藤沼醫院
平町紺屋町
電話平局五〇七番

移轉披露
毎度お贔負にあつかりまして誠に有難ふ存じます。今回皆樣の御獎めにより業務擴張の爲め來る
九月六日より
平町新田町
福榮亭跡
に移轉いたします、相變らず御贔負のほどお待ち申しております。
寶來亭
電話三二五番

食用鳩（カルノー　ホワイトキング　シルバーキング）
アリユウセキセイ　オカメインコ
アカボタンインコ　カルカヤインコ
ダルマインコ　小紋鳥
一紅鳥　錦花鳥
白文鳥　白十姉妹
青ノコリ　小斑
平町田町本通り
ベニヤ小鳥店

先月の郵便貯金
實に十七萬圓
益々増加の傾向にある
平局の取扱成績

平郵便局に於ける去月中の取扱事務概況は

△通常郵便物引受數二十三萬二千七百三十二通配達二十三萬六百九十五通

△電報發信三千四百四十三通着信四千百七十九通

△電話市內呼數四十四萬九千三百七

△爲替振り出し千四百四十五口　三萬四千二百七十六圓九錢拂出！千七百五十二口三萬七千八百四十四圓七十五錢

△郵便貯金預入れ三千二百三十九口十七萬三千八百六十圓拂戻千七百八十五口十二萬五千百六十九圓八十四圓

以上の如くで流石に當地方書入れの盆月であつただけに各種事務共異狀な增加で殊に貯金の如きは不景氣——と唱へられてゐながら預入れ十七萬餘圓と言ふ巨額に達してゐる更らに此れを昨年度（今年三月三十一日まで）現在の平局貯金預入れ口數は二萬二千二十七口と言ふ驚くべき膨大さで實に縣下第一位である金額は百十三萬六千四百餘圓に達し此れまた縣下第二位である

植田繭市場
盛況
現金取引きで

植田町植田繭市場は星理事長外二三の係員奔走の結果現金拂もを實行したる爲め急に出繭多く二三の兩日はいづれも八百匁以上づゝの取引あり相場は高値五拾五圓、安値四拾貳圓、平均四拾八圓五十錢である

平、小鐵道敷設の
路線變更運動
夏井、高久、豊間有志が
記名連判で陳情

平、小名濱間の所謂平小鐵道問題は、當時石城郡政友會選出元代議士白井博之、高岡唯一郎その他有力者が奔走

努力により第五十四議會に於て無事通過を見昭和六年度から敷設着工の運びに至つたことは既報した如くであるが該鐵道の通過豫定線路は小名濱から鹿島村を經由し、飯野村の西方を通過して平に到るといふのが主務省の設計案に、地元關係民も今日まで該案に對しては聊かの不滿もなかつたが最近に至り江名、豊間、高久、夏井等一町三ヶ村の沿道民では地形上、豫定線の

變更を叫び出し、江名町、豊間村、高久村、夏井村を經て平に連絡する樣主務省に陳情すべく目下代表者が調印集めに奔走中であるが、理由とする處は右一町三ヶ村の沿道は、豫定線沿道に比べると人口遙かに集密し、從つて物資の供給輸送等も前者に比し凌駕することも甚大であるからと云ふのであるが右

調印が濟み次第近く代表者を選び主務省に豫定線路變更の陳情をなす事になつてゐる

石城舊名偉人傳（五）
私財を棄てて貧者を救ふ
義人　久保木貞平

△久保木貞平

夏井村大字藤間の人にして祖父貞世以來里正たり、父の名は貞方、能く衆を愛し勸むるに農事の怠にすべからざるを以てし、官より賞を受くこと數回、祖父の業を襲ぐに專ら祖先の德を報せんとせり、此の父にして此の子あり、貞平性篤孝謙にして力を公事に盡し以て座の溫まることなし、天保四年奧州稔らず、民大いに飢ゆ、貞平自ら貯ふる穀を出してその急を救へり七年再び天下大いに飢ゆ、貞平直ちに五百金を以て常磐に赴き穀を購ひしも施救するに足らず、再び常陸に走り五百金を以て購ひ來り都合千金の穀を出して窮民を救助せりといふ貞平草野村赤沼の里正を兼ね祖金百三十兩を納めて窮民を救ふ、此の村民義倉に穀を積むこと能はず依つて貞平その能帶職の資を以て粟を購ひ之れを每年積み以て非常に備ふること九年に及ぶ、時の領主白銀五枚を賜ひ之れを表彰せり、是れより先き貞平自ら資を出して窮困者を救ひ且つ年貢に滯りなきを得せしむ凡そ十ヶ村に及ぶ依つて十三年再び領主の賞する所となり姓名を稱呼して士人と同じからしむ、後平城主安藤侯服一具を賜ひ且つ領內薄磯、沼之內の二濱にある所の酒店二字を與へ以てその德に酬ふと、弘化二年領內再び稔らず貞平自ら資を出して救ふこと前に同じ且つ義倉を村中に興し年粟二百五石を積み又別に宅中に一庫を建てて穀二百石を蓄へ以て不時の災禍に備ふ、貞平人の爲めにけるや寢食を忘れて東西に奔走すために遠近の民皆貞平を呼びて家公となす、亦た宜べなりといふべし、當主貞信氏は貞平氏の孫なり

△衡　嶺

平町字北目の人にして胡麿澤鈴木氏より出づ、幼にして僧となり、諸州に行脚して偏諸高僧に參禪し、鋭意典籍の蘊究に力む、而も行狀方正頗る良僧の風あり後白川關川寺に保し晚年四倉町に來たり大慈庵を營みて終焉の地となす年八十九歲安永五年四月十八日寂す

△室櫻關

平町の人にして安藤家の儒者たり而して經史に文章巧みなり又た兵學に達し藩の兵制を革新せり、明治九年朝鮮大尉來る時詩を以て贈る、大尉之れを嘆稱せりと云ふ、萬延年中藩主安藤信正閣老となるや顧問となりて補翼す、明治十八年七月三十日終に赴く年六十八歲

△大須賀アサ

天保十年十月十五日平窪村大字中平窪字細田七番地に生る、父を相田長五郎といひ其の長女なり、長じて大須賀廣三に嫁し文三を生む性溫良姑に事へて善く孝養を盡す、殊に廣三病死の後貞操を守り家計貧困なるも能く一家を維持し文三をして學び就かしむ、此の如きもの十有餘年その志を變せず遂にその筋の知る所となり明治二十四年十二月廿一日福島縣知事渡邊清金若干を下賜して之れを表彰す、明治三十三年五月六日沒す

郡下荒しの
犯人逮捕
平署で取調中

當時住所不定無職伊達郡茂庭村大字黑澤生れ鈴木榮二（三〇）は七月三十一日正午後頃湯本町菅野四郎方の留守宅に忍入り衣類三點代十二圓分を窃取したのを手始めに去月二十五日午後十一時半頃永戸村鈴木三郎方裏戸を破つて押入り箪笥を捻開いて現金七十圓在中の財布を窃取逃走湯本町遊廓に登樓豪遊を極め込んでゐたのを同町上町駐在兒島巡査の爲めに逮捕された上本署に拘置目下嚴重取調を進めてゐるが餘罪多い見込である

監督の不行屆で
町當局を批難
公金費消問題に發端し
湯本町民等騷ぐ

石城郡湯本町大竹兵馬（四七）は同町役場に在職中大正十四年より昭和二年の三ヶ年に亘り納稅金一千四百圓を橫領

費消した事平署に探知され取調べを授たことは既報の如くであるが其後大竹は大正十四年度分の費消せし納稅金三百圓は辨濟し殘餘金は自己の所有不動產の一部を整理して辨濟の義務を果すといふ條件のもとに一先づ司直から解放される事になつたが一方役場當局が、每年度末に於てその年度の未納稅金に對する整理をなすべき

當然の職責を有するにも拘らず、然も三ヶ年に亘り何等整理を施さず之を放任せしことは職務怠慢も甚だしく、その責むしろ役場當局にありとて目下湯本町民には前村長高木巳之吉及び稅務主任收入役等に對し非難の聲を放つてゐるが、一問題起る模樣である

北辰妙見の
假裝行列
當選の十氏名

平町白銀町北辰妙見神社の例祭は昨四日盛大に執行したが當日午後七時より呼物の假裝行列は殊の外人氣を呼び人出無慮一萬を超え非常の賑ひを見た、因に假裝行列は審査の結果左の十氏當選した

△一等（飴賣夫婦）鐵道松本正、須藤繁

△二等（影法師）長橋町遠藤政夫

△三等（お上り爺娘）四軒町水野五郎

△四等（桃太郎と鬼）五丁目玉木屋店員

△五等（一心多助）南町齊藤正喜

△六等（チャツプリン）白銀町柏木勝利

△七等（同上）紺屋町中島湖州

△八等（鳥追ひ娘）田町南武

△九等（兎の餅つき）白銀町白銀町花澤アン餅屋

△十等（神官）平局內酒井利一郎（以上）

磐中校に開く
縣下中等校競技
愈々來る九日擧行
柔道劍道の粋

縣下スポーツ界興味の中心として各方面から注目されてゐる全縣下中等中學競技大會は來る九日午前九時から柔道、劍道（平）野球、庭球（福島）陸上競技（郡山）の三ヶ所に於いて盛大に擧行されるが磐中では全校生徒が應援團を組織し必勝を期し更らに磐中、競技部選手全部は此れまた優勝を目ざして死者狂いの猛練習を續けてゐる尚大會中の呼物たる柔道劍道は磐中武道場に於いて擧行されるが當日は我國劍道界の二大双璧として知られてゐる中山博道、高野佐三郎兩師範を始め柔道は櫻庭、高橋、本多等の各六段が審判の爲め來平するので地元で擧行される此の柔劍道は必らず優勝せんと意氣込み物凄く目下歸省中の先輩選手を迎へて猛練習中である

事業と人……（三）……
理想の大業成る
大和田氏の努力空しからず
市原病院の陣容

凡そ事業中の難事業である教育事業の爲め大半生を献げ今にして漸く理想の域に到達したもの中に平町私立磐城佑賢學舍長大和田豊吉氏のある事は實に地方教育界の及め嘉すべき事實たるを失はない、獨學力行の學人大和田豊吉氏が國民教育の大見地から教員養成を主眼に磐城佑賢學舍を創設したのは去る大正二年である、爾來十六年間萬難を排して刻苦經營の任に當り遂ひに今日の大成を見るに至つた事は人の克く知る所にして社會は氏を以て地方教育の神なりと尊敬してゐるも決して故なきにあらずである、就學生徒年々數を增し之れ等幾多の卒業生は或は實業に就くもの、或は上級學校に進むもの等直接活社會に立つもの、一方同校の主眼とする教員養成は非常なる好成績を以て年々幾多の優秀なる教育者を社會に移り急を叫ばれてゐる義務教育の完成に貢獻しつゝある事は本縣私立學校中出色のものとして益々將來を囑目されてゐる、此の偉大なる事業と貢獻とは期せずして社會の認める所なり本縣當局を感動せしめ益々同校の隆昌發展を期する爲め近く縣補助金の交附を見るに至るらしいが之れ素より當然の事にして大和田氏の一大遺業を飾る寧しろ縣民の義務である、益々大和田氏の健闘を祈るや蓋し筆者許りではあるまい

市原病院

市原卯太郎氏の經營する平町田町大通り磐城病院は種々の不便宜より今回市原病院と改稱した、院長市原卯太郎氏は內科の權威として夙に聞え高く古い歷史と經驗とを持つ熟達の名醫である、德操高く溫厚な人格者にして患者の信頼の篤は勿論一般同業者間の衆望を聚め既に早くより石城郡聯合醫師會長を勸めてゐる、而して副院長市原陸郎氏は院長の實弟にして氏また稀れに見る溫厚の青年人格者である、氏は殊に外科に秀でその實蹟と歷史とは世の定評を博してゐる所である、同病院の擴張に伴れ先年茨城縣大津町に分院を創設して以來同氏は專ら此處に在り殆むと一手專賣的に多賀方面に雄飛してゐる、若し平町の本院に大なる手術等のある場合は直ちに馳せ付け一般の爲め濟生の實を擧げてゐる、而して茲に特に紹介せんとするは市原院長の令息たる市原三三男氏が先年專門の學窓を出づるや直後東京市芝區岩佐外科病院に在りて鋭意實地の練磨を積み今月初旬歸省し專ら外科を擔當する事となつたのは市原病院の錦上更らに花を添ひしものと云ふべきである即ち內外、外科共に優秀な陣容を整えた同病院の將來こそは實に一般から偉大な信用と期待の聲を向けられてゐる

空巣の鼠賊
湯本で捕はる

湯本町三函附近で去る二日擧動不審な新潟縣生れ小林清藏（四〇）と稱する男を發見本署に引致の上嚴重取調中である事昨報の如くであるが取調た結果此奴は常時住所不定新潟縣中蒲原郡白根町生れ前科二犯久和清作（四〇）で去る一日白根町五六町魚屋梅津淺之丞方に忍入り賣り溜現金十二圓を窃取した事自白したが餘罪多い見込で引續き取調中である

縣補助下附
佑賢學舍に
大体決定す

平町磐城佑賢學舍は國民教育に貢獻すべく準教員養成の上から最も必要なるものとして現學舍長大和田豊吉氏が私財を投じて大正二年に創立し爾來十六年間萬難を排して目的の達成に努めて來た、現在では在籍生徒數三百名に達し堂々たる學校となつた、然し從來同學舍は餘り知られて居らず縣は勿論町からも何等の補助がなされて居なかつたが計らずも過般縣參事會員の出納檢査があり同時に同舍の內容等に就ても調査をなした結果內容の充實して居る事が判明したので縣に於ても明年度あたりから相當補助をなす事となつた模樣である

教員檢定試驗
二十五日から執行

石城郡小學校教員檢定試驗は來る二十五日から三十日まで五日間平町第一小學校講堂に於て執行することに決定したが受檢者は約六十名であると

河西氏出發
十六七日頃

本縣農工銀行平支店長より本店詰め庶務課長に榮轉した河西八十治氏は來る十六七日頃赴任の筈である

愈々來る十日に
縣社の大例祭
新築工事も落成して
平町稀れの賑ひ

平町縣社小鍬倉神社の御造營工事も愈々落成來る九十の兩日に亘り盛大な大祭を擧行する事になつたが九日は供進使參向例大祭儀を執行十日には青年團奉仕稚兒警固供奉古式手古舞の神輿市內を渡御するが九日夜は活動寫眞、大櫓太鼓にて甚句踊り等の餘興ある筈御造營奉祝で市內に未曾有の賑を呈するものと豫想されてゐる

人妻を四日間も
監禁して凌辱
泡を喰つた亭主の面
平署犯人を逮捕

內郷村大字宮之澤磐炭坑夫蒲生政利（三二）內緣の妻齋藤イチエ（二八）は去る八月廿五日午前八時頃入浴してくると稱して家を出た儘行方を晦ましたので夫政利は大いに驚き八方手配してイチエの行方を

捜査したが判明せず平署に捜査方を願出たところ家出してから四日後の廿九日夜悄然と歸宅したので夫政利が事情を聞いた處同日入浴して歸宅の途中豫ねて知り合となつてゐる同村大字高坂字御殿坑夫岡男茶（三六）がイチエの跡をつけて人なき個所を通りかかるや矢庭に後方から飛付き聲を立てると此れだぞと

短刀を突付けて脅迫イチエを自宅に連れもどり四日間の間監禁短刀を突き付け脅迫凌辱してゐたが男茶の隙を見て逃げ出して來た事判明驚いて平署に屆出たので平署では男茶を逮捕目下平署に於いて嚴重取調中である

取立金詐欺
植田の久太郎

石城郡植田驛前苗木屋田中久太郎（四三）は數日前双葉郡上岡村安藤安吉方に至り平町新川町新藤屋旅館から依賴されたと稱し宿泊料四十五圓を詐取逃走したので所轄署で行方嚴探中であるが同人は同樣手段で各地を荒し廻つてゐたものらしい

少年誘拐の
惡黨市信
平署へ告許さる

赤井村大字下赤井農阿部市信（三七）は好間村大字北好間字室田月岡一二（一七）が東京にたいと口癖にしてゐるのを知り適當な就職口があるから世話してやろうと欺き去月十九日一二は實父の所持金二十圓を盜み出して市信を訪れたので中十五圓は俺れが預かつて置くと稱して捲上げ同夜は赤井字南赤井竹之湯家に一泊し翌朝一二が熟睡中に置き去り逃走したので此の程一二は市信を相手取つて平署に告訴を提起した

軌道を廢止
好間軌道の總會

石城郡好間村に本社を有する好間軌道會社總會は五日午後一時から同社に開會軌道改正の件が附議されたが同社では軌道を廢してこれに代ふるに自動車を運轉する事となるらし

馬匹檢査技手

石城郡產馬畜生組合長より兼て申請中の馬の傳染性貧血病豫防につき農林省に對し技術官の派遣方申請中の所今回農林省より農林技手星野爲雄氏九月七日より九日まで三日間派遣の旨畜產局長より回答があつた

路傍に擁し
娘に暴行
時計を强奪

石城郡泉村鈴木くみ（二三）が三日午後八時半頃同村地內道路を通行中突然背後から三十前後勞働者風体の男が同人に飛びつき押し倒し腕時計を强奪更に怪しからぬ行爲に及ばんとしたので救助を乞ひ極力抵抗したので目的果さず逃走急報により植田署では非常線を張り犯人嚴探中

悲觀の自殺

石城郡四倉町字新町留吉長男深谷丈助（一九）は三日午後四時頃自宅でコカイン一グラムを嚥下し苦悶中を家人が發見應急手當を施した結果幸ひに一命を取止めた同人は昨年磐城中學を卒業後二回に亘り日本藥學校の入學試驗を受けたが失敗し前途を苦慮して自殺を圖つたものであると

ポストを移轉

平町鐵北方面は近來異狀な發展を見せて來たが平郵便局では在來柳町中央にあつた郵便ポストを四軒町の十字路地點に移轉し在來の不便を緩和する事となつた

庭球の試合

磐中庭球部では今五日午後一時から磐中コートに於いて全平聯合軍と庭球試合を擧行

※……笑話……※

東京新聞を見て居た妻君「さすがは人妻の心根でしほらしいものですね、此前の疑ひも免罪で歸つて來たのだから、今度のも決して亭主ではないと固く信じて居たんですつて」

「アッそれ聞いて乃公も安心した」（田町アイ公）

時言

郵便貯金の殖えることは何を物語る、信用の薄い銀行が此の調子で預金を引き出されては、泣いても吠えても助かるまい

□

平、小鐵道の路線變更運動よろし、出來る相談なら結構、だが徒らに雷同する勿れ、職業的運動は眞ッ平御免だ

□

吏員の公金費消、監督者を攻めるなんて時代おくれだ、實のところ、その監督者までぐるにならなかつたのが譽れの世の中だ

□

人妻を四日間も監禁してたく男よりも、されてゐる女の方が度胸がよい、それでも女房を信ずるんだから亭主は有難いや